

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## Direction of trade development of farm produce in the North America : focusing on the US trade

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 千葉, 典, Chiba, Tsukasa メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/610">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/610</a>

This work is licensed under a Creative Commons  
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0  
International License.



# 北米諸国間における農産物貿易の展開方向

## —— 米国からの輸出入を中心に ——

千葉 典

### 1. 問題の所在

北米自由貿易協定（NAFTA）が1994年1月1日に発効してから、10年余が経過した。一方、WTOでは2001年にドーハ開発アジェンダが開始されたが、そこでの貿易交渉が停滞するなかで国境を越えた地域経済統合の流れは急速に進展し、北米においても米国を中心とした3カ国の経済は、統合の度合をいっそう強めてきている。

NAFTAにおいて、農業分野は3カ国共同の合意によらずに自由化が進められることとされており、米国・カナダ間では米加自由貿易協定を踏襲、米国・メキシコ間ではNAFTA発効と同時にすべての非関税措置を関税化するか、または関税割当制が導入され、2009年からは関税割当制も廃止されるなど、域内貿易自由化への動きは大幅に加速している。その結果、北米諸国の農産物貿易が拡大するなかで、各国農業は外的要因によりその構造を規定される方向への変容を遂げていると考えられる。

本稿の目的は、米国を中心として北米における農産物貿易の動向を追跡することにより、NAFTA発効後の各農業における構造変化の規定要因となつた農産物の国際的流れを明らかにすることである。このため、まず次節では米国の農産物輸出入の動向を地域ごとに概観し、その変化と北米地域の地位を確認する。次いで3節では、北米地域に対する米国の輸出入における主要品目カテゴリー別の動向を追跡する。さらに4節では、北米地域での米国

農産物貿易における最大の純輸出部門である穀物等の輸出と、最大の純輸入部門である園芸作物の輸入とに対象を絞り込み、主要品目の貿易に関する時系列の変化を析出する。これらの作業によって明らかにされる、北米地域の農産物貿易でNAFTA 発効後10年間に生じた変化の概略は、各国農業の変容を分析するにあたって、農産物貿易が各国農業に及ぼした影響を解明するための一助となるはずである。

## 2. 米国の農産物貿易における地域構成

米国農務省（USDA）が自ら任じるとおり、農産物貿易は同国にとってきわめて重要な輸出部門のひとつである。<sup>1)</sup> NAFTA 発効の1994年、林・水産物をのぞく米国の農産物輸出総額は461.6億ドルに達しており、輸入総額270.2億ドルに対して大幅な出超を記録していた（第1表）。NAFTA 発効後10年が経過した2004年の農産物輸出額は613.8億ドルに達し、この間に33.0%増加している。しかし農産物輸入はこれを上回るペースで拡大し、2004年には539.8億ドル、対94年比98.4%増と、10年間でほぼ倍増した。その結果、上記の数値から単純に計算される農産物貿易黒字は、94年の191.4億ドルから2004年の73.9億ドルへと大幅に圧縮されている。この10年間、農産物貿易が全般的に拡大する下で、米国の輸入は輸出を上回るペースで拡大し、ドル箱であった農産物貿易黒字を大きく減らしたことが確認できる。

米国産農産物にとって最大の顧客は、日本や中国を含む東アジア地域である。同地域に対する94年の農産物輸出額は162.7億ドルで、総輸出額の35.2%を占めていた。その後、対東アジア輸出は150億ドルから220億ドルの間を推移し、2004年には191.8億ドル、対94年比で17.9%の増加となっているが、そのシェアは31.2%へ低下した。実際、米国の農産物輸出に東アジア地域が占める割合は、95年の38.5%をピークとして低下傾向にあり、ここ数年は3割強の水準にとどまっていることから、米国農産物輸出の拡大のかけで東ア

第1表 米国の農産物輸出入（地域別）

輸出		1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004	(百万ドル)
北 カ ナ メ キ カ リ ブ 中 南 E U EU 旧 ソ 東 ア 東 東 南 南 オ 才 中 北 サ そ	米 ダ シ 域 米 米 国 以外の 連地 ジア ジア ジア セア 東 アフ サブ の他	10,136 5,550 4,587 1,010 758 1,789 7,200 487 979 16,269 1,968 616 551 1,729 1,677 747 248	11,653 6,122 5,441 1,411 1,216 2,569 9,422 532 1,612 22,113 3,254 490 2,108 2,438 1,871 852 627	13,144 6,993 6,151 1,462 1,120 2,550 8,205 401 982 15,952 2,108 620 542 2,190 1,373 731 323	14,050 7,640 6,410 1,408 1,233 1,701 6,483 515 670 16,819 2,644 409 489 2,322 1,571 737 306	15,526 8,121 7,404 1,399 1,518 1,703 6,631 734 1,060 16,647 2,963 702 471 2,223 1,455 649 262	15,888 8,660 7,226 1,518 1,589 1,788 6,338 659 695 16,203 2,892 629 511 2,259 1,369 928 187	17,193 9,313 7,879 1,589 1,850 1,909 6,661 412 739 19,949 3,056 674 621 2,547 1,406 1,083 186	18,235 9,741 8,494 1,850 1,428 1,951 6,786 418 1,112 19,182 3,111 702 601 2,830 1,564 1,390 224	
界 計		46,164	60,408	51,801	51,246	53,659	53,115	59,364	61,383	

輸入		1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004	(百万ドル)
北 カ ナ メ キ カ リ ブ 中 南 E U EU 旧 ソ 東 ア 東 東 南 南 オ 才 中 北 サ そ	米 ダ シ 域 米 米 国 以外の 連地 ジア ジア ジア セア 東 アフ サブ の他	8,191 5,298 2,894 375 1,580 4,060 5,572 202 36 1,037 2,622 520 1,805 360 50 613 L	10,553 6,789 3,764 472 1,970 4,828 6,731 240 186 1,231 3,606 638 1,657 517 76 808 L	12,473 7,787 4,686 459 2,070 4,856 7,566 257 40 1,380 3,338 805 2,160 579 71 840 L	13,738 8,661 5,077 328 2,132 4,780 8,276 251 48 1,571 2,868 890 2,761 448 92 791 L	15,128 9,863 5,265 337 1,909 4,378 8,178 265 37 1,558 2,415 748 3,066 512 92 757 L	15,868 10,350 5,518 357 1,958 4,707 8,911 297 40 1,795 2,657 737 3,155 484 78 844 L	16,587 10,286 6,301 383 2,140 5,394 10,956 326 48 2,051 3,442 760 3,499 566 101 1,099 L	18,715 11,453 7,262 360 2,269 6,171 12,331 396 58 2,538 4,154 939 4,159 609 151 1,126 L	
界 計		27,024	33,511	36,894	38,974	39,366	41,909	47,376	53,977	

注：統計上の不突合は四捨五入処理による。Lは50万ドル未満（四捨五入時100万ドル未満）を示す。

出所：米国農務省資料（<http://www.fas.usda.gov/ustrade/>）より作成

ジア地域の地位が相対的に低下していることがうかがえる。

世界農産物市場において米国の大手の商売敵となったEUは、同時に重要な貿易パートナーでもあるが、その地位は過去10年間に大きく変化を遂げた。EU 25カ国向け農産物輸出は、94年72.0億ドル、その後96年には94.2億ドルを記録したが、これをピークとして減少傾向に転じ、2000年以降は60億ドル台の水準が定着、2004年には67.9億ドルとなっている。輸出総額が増加するなかでの絶対額の減少は、EU向け農産物輸出シェアの大幅な低下をもたらした。米国の農産物輸出に占めるEU 25カ国のシェアは94年に15.6%であったが、97年に16.2%まで達した後は減少の一途をたどり、2004年には11.1%とメキシコ一国にも及ばない水準まで低下している。

これとは対照的に、EUからの農産物輸入はほぼ一貫して増加を記録している。94年に55.7億ドルであったEU 25カ国からの輸入は、過去10年間順調に増え続けて2003年に100億ドルを突破、2004年には123.3億ドルに達した。ただし、輸入に占めるEU 25カ国の割合は、94年の20.6%から2004年の22.8%へと緩やかな増加にとどまっており、米国の農産物輸入全体と同地域からの輸入とが歩調を合わせて拡大してきたことを確認できる。

対EU農産物貿易における輸出減少と輸入増大との併進は、米国農業に対して同地域が持つ役割を決定的に変化させた。94年当時の対EU農産物貿易収支は単純計算で16.3億ドルの出超であったが、1999年を画期として輸出が輸入を下回るようになり、2004年には55.5億ドルの入超を記録している。いまやEUは、世界農産物市場におけるばかりでなく米国内の農産物市場においても、米国産農産物と競合する存在になりつつある。

NAFTA発効以後、上記の2地域よりもさらにめざましい変化を遂げたのが、北米2カ国の地位である。米国の北米向け農産物輸出額は、94年の101.4億ドルから2004年の182.4億ドルへと79.9%増加、そのシェアは同期間に22.0%から29.7%へと大きく伸長し、北米地域は輸出先として最大の顧客である東アジア地域にほぼ匹敵する存在となった。国別では、上記の10年間

にカナダ向け輸出が55.5億ドル（12.0%：カッコ内はシェア、以下同様）から97.4億ドル（15.9%）へと75.5%増、メキシコ向け輸出が45.9億ドル（9.9%）から84.9億ドル（13.8%）へと85.2%の増加を記録している。米国の農産物輸出にとって、両国がこの10年間にきわめて重要な存在となってきたことがうかがえる。

他方、農産物輸入に関しても、北米地域の重要性はいっそう増している。同地域からの米国の農産物輸入額は、94年の81.9億ドル（30.3%）から年々増加を続け、2004年には187.2億ドル（34.7%）と10年間で2.28倍に膨れあがり、ついに輸出額を上回る水準に達した。同期間の動向を国別に確認すると、カナダからの輸入は53.0億ドル（19.6%）から114.5億ドル（21.2%）へ2.2倍、メキシコからの輸入に至っては28.9億ドル（10.7%）から72.6億ドル（13.5%）へと、実に2.5倍の増加を記録している。NAFTA発効以後における米国農産物貿易の著しい増加は、輸出入とともに、カナダとメキシコの両国によってその主軸を支えられていた。上記の動向が、北米における農産物市場統合の進展を反映していることは、論を待たないであろう。

### 3. 対北米貿易における品目構成

#### （1）輸出

米国の農産物輸出を品目カテゴリー別に検討すると、2004年時点で最大の輸出品目は穀物および飼料で、輸出額は172.7億ドルで総輸出額の28.1%を占めている（第2表）。1994年の輸出額130.2億ドルに対して32.6%増加している計算になるが、同年の穀物および飼料のシェアは28.2%であり、2004年時点と大差ない水準にある。過去10年間、米国の農産物輸出に占める穀物および飼料の割合は20%台後半から30%前後を推移しており、輸出額については年次により多少の増減があるものの、シェア3割弱という状況には大きな変化がない。これに次いで輸出額が大きい品目が野菜・果実等の園芸作物で、

第2表 米国の品目別農産物輸出

世界計

(百万ドル)

	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
穀物・飼料	13,017	20,050	13,509	13,183	13,370	13,968	14,614	17,267
園芸作物	9,102	10,238	10,280	10,778	10,968	11,270	12,357	13,681
油糧種子及び加工品	8,206	11,925	10,291	9,325	9,893	10,251	12,305	11,108
家畜及び肉類	6,644	7,691	7,351	8,569	8,927	8,373	9,090	6,585
綿花等	2,641	2,015	2,081	1,893	2,174	2,031	3,376	4,251
食鳥及び加工品	1,952	2,832	2,536	2,235	2,636	2,064	2,287	2,577
砂糖及び熱帶產品	1,885	1,396	1,459	2,320	2,581	2,296	2,475	2,515
酪農品	762	711	887	980	1,086	945	997	1,453
たばこ及び加工品種	1,304	2,741	2,572	1,204	1,269	1,050	1,038	1,044
合 計	46,164	60,408	51,801	51,246	53,659	53,115	59,364	61,383

対北米

(百万ドル)

	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
穀物・飼料	2,097	3,123	2,856	2,934	3,500	3,673	3,927	4,107
園芸作物	3,073	3,073	3,655	4,154	4,343	4,670	5,078	5,510
油糧種子及び加工品	1,277	1,661	1,724	1,681	1,841	2,061	2,426	2,487
家畜及び肉類	1,737	1,559	2,083	2,410	2,644	2,680	2,603	2,472
綿花等	257	363	736	573	573	402	536	601
食鳥及び加工品	489	478	611	584	624	545	639	802
砂糖及び熱帶產品	772	789	936	1,090	1,236	1,061	1,201	1,309
酪農品	240	207	302	350	438	397	456	615
たばこ及び加工品種	2	4	2	1	2	6	3	2
合 計	10,137	11,563	13,144	14,050	15,525	15,886	17,192	18,235

対カナダ

(百万ドル)

	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
穀物・飼料	894	1,031	1,155	1,252	1,430	1,618	1,727	1,718
園芸作物	2,524	2,670	3,058	3,268	3,333	3,682	3,966	4,297
油糧種子及び加工品	367	521	528	621	737	804	929	1,026
家畜及び肉類	803	795	851	1,012	1,032	960	965	775
綿花等	64	101	122	102	101	79	108	103
食鳥及び加工品	234	241	329	317	344	343	346	441
砂糖及び熱帶產品	522	562	717	747	820	852	959	1,013
酪農品	58	98	120	183	189	196	198	229
たばこ及び加工品種	2	4	2	1	2	3	2	1
合 計	5,550	6,122	6,993	7,640	8,121	8,660	9,313	9,741

第2表(つづき)

対メキシコ

(百万ドル)

	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
穀物・飼料	1,203	2,092	1,701	1,682	2,070	2,055	2,200	2,389
園芸作物	549	403	597	886	1,010	988	1,112	1,213
油糧種子及び加工品	910	1,140	1,196	1,060	1,104	1,257	1,497	1,461
家畜及び肉類	934	764	1,232	1,398	1,612	1,720	1,638	1,697
綿花等	193	262	614	471	472	323	428	498
食鳥及び加工品	255	237	282	267	280	202	293	361
砂糖及び熱帶產品	250	227	219	343	416	209	242	296
酪農品	182	109	182	167	249	201	258	386
たばこ及び加工品種子	L	L	L	L	L	3	1	1
合計	4,587	5,441	6,151	6,410	7,404	7,226	7,879	8,494

注：統計上の不突合は四捨五入処理による。Lは50万ドル未満（四捨五入時100万ドル未満）を示す。

出所：米国農務省資料（<http://www.fas.usda.gov/ustrade/>）より作成

94年の91.0億ドル（19.7%）から2004年の136.8億ドル（22.3%）へと、金額・シェアともに拡大傾向にある。油糧種子およびその加工品の輸出は、同期間に82.1億ドルから111.1億ドルへ増加したが、シェアは94年の17.8%からほぼ2割弱の水準を推移して2004年には18.1%となっており、10年間おおむね横ばいであった。家畜および肉類も同様の傾向を示しており、94年の66.4億ドル（14.4%）から2003年の90.9億ドル（15.3%）へと輸出額を伸長させてきたが、同年末の米国におけるBSE発症の影響もあって、2004年の輸出額は65.9億ドル（10.7%）へと急落している。

以上は全世界に対する米国農産物輸出の動向であるが、対象を北米地域に限定すると、やや異なる特徴が観察される。最大の輸出品目は野菜・果実等の園芸作物であり、輸出額は94年の30.7億ドル（30.3%）から2004年の55.1億ドル（30.2%）へ、79.3%と大幅に増加した。その約8割がカナダ向けであり、同期間の輸出額は25.2億ドルから43.0億ドルへ、70.2%の増加となっている。これに対して、メキシコ向けの輸出は、金額では5.5億ドルから12.1億ドルへと比較的少ないものの、過去10年間で約2.2倍に拡大しており、米国産の野菜・果実にとってメキシコが将来有望な成長市場であることを示

している。さらに穀物および飼料の輸出については、両国の立場が逆転してメキシコが約6割を占める。94年と2004年の輸出額を比べると、カナダは8.9億ドルから17.2億ドルへ92.2%の増加、メキシコは12.0億ドルから23.9億ドルへ98.6%の増加と、いずれも倍増に迫る勢いであり、両国を合計すると21.0億ドル（20.7%）から41.1億ドル（22.5%）へと、北米向け輸出全体の2割強を穀物および飼料が安定的に占めている。米国からカナダ・メキシコ両国への輸出は、上述のとおり過去10年間に101.4億ドルから182.4億ドルへと金額ベースで約8割増加したが、野菜・果実などの園芸作物と穀物および飼料とでその過半を占める状況にある。

## （2）輸入

品目カテゴリー別で米国の農産物輸入に占める割合がもっとも高いのは、野菜・果実等からなる園芸作物で、2004年の輸入額は246.1億ドルに達し、総輸入額の45.6%を占める（第3表）。94年の輸入額は98.7億ドル（36.5%）であったから、絶対額で約2.5倍増加、シェアも1割近く拡大した計算になる。2番目に輸入額が多いのが砂糖および熱帯産品のカテゴリーであり、94年の66.6億ドルから2004年の103.5億ドルへ10年間で55.3%増加したが、その占める割合は同期間に24.7%から19.2%へと低下した。砂糖及び熱帯産品のシェ

第3表 米国の品目別農産物輸入

世界計	(百万ドル)							
	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
穀物・飼料	2,330	2,657	2,841	3,051	3,332	3,702	3,883	4,255
園芸作物	9,874	12,520	14,613	16,569	17,159	18,696	21,892	24,612
油糧種子及び加工品	1,506	2,006	2,059	1,873	1,651	1,815	2,105	3,026
家畜及び肉類	4,675	4,662	5,288	6,397	7,091	6,939	6,613	7,833
綿花等	21	300	18	28	27	25	28	18
食鳥及び加工品	136	183	202	289	280	316	311	410
砂糖及び熱帯産品	6,663	8,685	9,186	8,012	6,964	7,549	9,386	10,349
酪農品	976	1,263	1,486	1,657	1,767	1,746	1,976	2,331
たばこ及び加工品	613	922	771	628	676	717	757	702
種子	230	313	430	470	419	405	427	442
合計	27,023	33,511	36,894	38,974	39,366	41,909	47,376	53,977

第3表(つづき)

対北米

(百万ドル)

	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
穀物・飼料	1,334	1,618	1,635	1,815	2,027	2,254	2,259	2,490
園芸作物	2,706	3,648	4,891	5,513	6,145	6,487	7,359	8,286
油糧種子及び加工品	674	828	875	645	627	635	785	1,079
家畜及び肉類	2,244	2,664	2,915	3,499	4,090	3,971	3,333	3,640
綿花等	14	3	3	1	L	1	L	L
食鳥及び加工品	33	49	52	81	107	131	138	190
砂糖及び熱帶産品	1,044	1,466	1,719	1,801	1,731	1,961	2,232	2,428
酪農品	53	114	210	223	243	252	315	423
たばこ及び加工品	11	36	54	34	44	49	44	37
種子	78	97	119	124	115	128	119	141
合計	8,192	10,553	12,473	13,738	15,128	15,868	16,587	18,715

対カナダ

(百万ドル)

	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
穀物・飼料	1,240	1,478	1,468	1,635	1,819	2,021	1,985	2,165
園芸作物	817	1,091	1,535	1,961	2,215	2,338	2,632	2,857
油糧種子及び加工品	660	799	834	610	585	598	744	1,030
家畜及び肉類	1,866	2,508	2,663	3,044	3,627	3,621	2,797	3,015
綿花等	L	L	L	L	L	L	L	L
食鳥及び加工品	32	49	52	80	106	129	136	186
砂糖及び熱帶産品	552	662	904	987	1,140	1,267	1,583	1,692
酪農品	50	104	202	213	230	226	266	354
たばこ及び加工品	9	12	24	20	34	31	29	27
種子	71	86	105	110	109	120	112	126
合計	5,298	6,789	7,787	8,661	9,863	10,350	10,286	11,453

対メキシコ

(百万ドル)

	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
穀物・飼料	94	140	167	180	208	233	274	325
園芸作物	1,889	2,557	3,356	3,552	3,930	4,149	4,727	5,429
油糧種子及び加工品	14	29	41	35	42	37	41	49
家畜及び肉類	378	156	252	455	463	350	536	625
綿花等	14	33	3	1	L	1	L	L
食鳥及び加工品	1	1	L	L	L	2	2	4
砂糖及び熱帶産品	492	804	815	814	591	694	649	736
酪農品	3	10	8	10	13	26	49	69
たばこ及び加工品	2	24	30	14	10	18	15	10
種子	7	11	14	14	6	8	7	15
合計	2,894	3,764	4,686	5,077	5,265	5,518	6,301	7,262

注：統計上の不適合は四捨五入処理による。Lは50万ドル未満（四捨五入時100万ドル未満）を示す。

出所：米国農務省資料（<http://www.fas.usda.gov/ustrade/>）より作成

アは2000年まで20%を超えていたが、2001年以降は継続的に20%を割り込んでおり、近年ではこの水準が定着していると考えられる。家畜および肉類がこれに次ぎ、輸入額は94年の46.8億ドルから継続的に伸長、2004年には78.3億ドルと10年間で67.6%増加した。この間のシェアは、94年の17.3%以降15%前後の水準を上下しており、2004年には14.5%へとやや低下している。穀物および飼料の輸入も同期間に23.3億ドルから42.6億ドルへ82.6%増加したが、その占める割合は94年の8.6%からおおむね7～8%台で安定的に推移、2004年には7.9%となっている。2004年時点で上記の品目カテゴリー別輸入額と輸出額とを比較すると、園芸作物と砂糖および熱帯産品がそれぞれ109.3億ドルと78.3億ドルの大幅な入超、家畜および肉類も12.5億ドルの入超であり、穀物および飼料では130.1億ドルの出超となっている。また、油糧種子および加工品についても80.8億ドルの出超を記録しており、土地利用型の粗放的作目を輸出する一方で土地集約的作目を輸入する、米国農産物貿易の特徴が如実に表れている。

北米地域からの輸入においても、園芸作物が最大のカテゴリーであることに変わりはない。輸入額は94年の27.1億ドルから2004年の82.9億ドルへ実に約3倍の増加を遂げ、品目シェアも33.0%から44.3%へと大きく拡大している。そのほぼ3分の2をメキシコ、残りをカナダが占めており、2004年のメキシコからの輸入額54.3億ドルは北米からの輸入額82.9億ドルの65.5%にあたるのみならず、メキシコからの農産物輸入総額72.6億ドルのうち74.8%と、その約4分の3を園芸作物が占めていることになる。他方、家畜および肉類、穀物および飼料、砂糖および熱帯産品の輸入額については、カナダがメキシコを上回っている。北米地域からの家畜および肉類の輸入額は、94年の22.4億ドル（27.7%）から伸び続けて2001年には40.9億ドル（27.0%）に達したが、その後やや減少して2004年には36.4億ドル（19.4%）となり、対94年比で62.2%増加したものの、やや品目シェアを落とした。2004年にはカナダからの輸入が30.2億ドル、北米地域からの輸入の82.8%と、その圧倒的割合を

占めている。北米からの砂糖および熱帶産品の輸入は、かなりの部分が甜菜糖やその加工品とみられるが、94年から2004年の間に輸入額は10.4億ドル(12.7%)から24.3億ドル(13.0%)へ2.4倍となった。ここでもカナダの伸長は著しく、同期間に5.5億ドルから16.9億ドルへ約3倍となり、北米地域からの輸入に占める同国の割合は94年の52.9%から2004年の69.7%へと大きく増えている。穀物および飼料の動向も同様の傾向を示しており、同期間ににおける北米地域からの輸入額は13.3億ドル(16.3%)から24.9億ドル(13.3%)へ86.7%増加、うちカナダからは2004年に21.7億ドルを輸入し、北米地域からの輸入の86.9%を同国が占める。

北米地域について品目カテゴリー別に2004年の輸出と輸入とを差引勘定すると、穀物および飼料は単純計算で16.2億ドルの出超、園芸作物は27.8億ドルの入超(ただしカナダに対して14.4億ドルの出超、メキシコに対して42.2億ドルの入超)、油糧種子および加工品は14.1億ドルの出超、家畜および肉類は11.7億ドルの入超、砂糖および熱帶産品については11.2億ドルの入超ということになる。そこで次節では、北米地域において米国最大の農産物純輸出部門である穀物および飼料の輸出と、最大の純輸入部門である園芸作物の輸入とに対象を絞って、さらに分析を進めることとしたい。

#### 4. 品目別貿易の動向

##### (1) 米国による穀物等の輸出

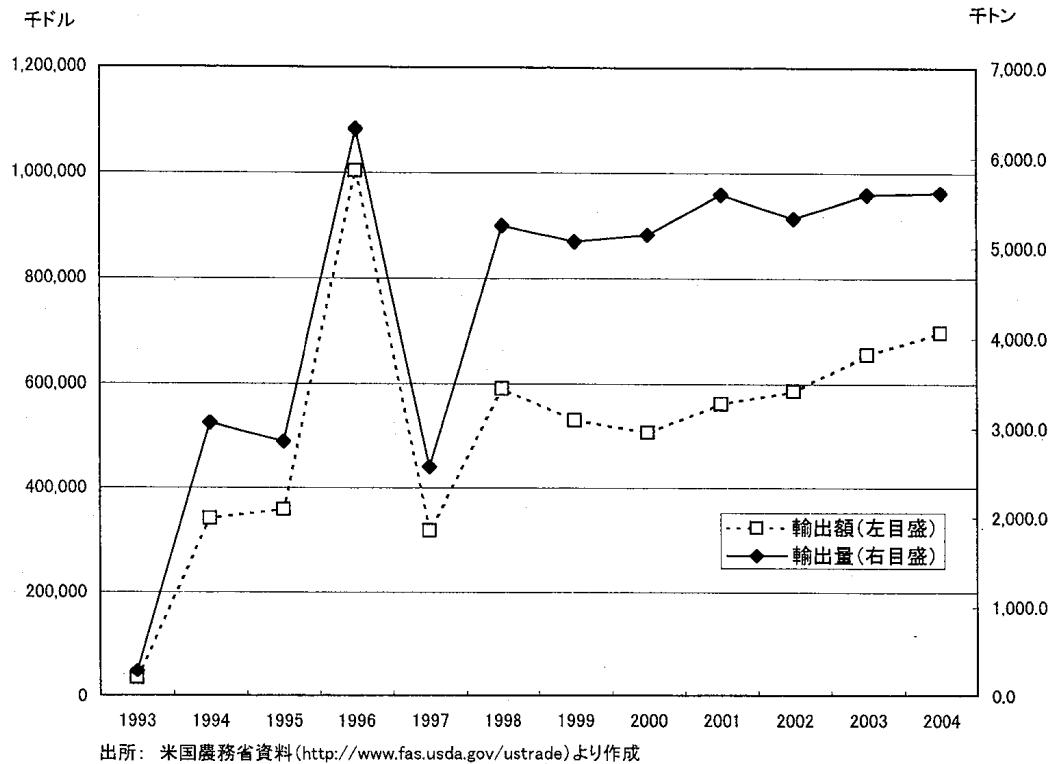
米国からの北米2カ国向け穀物および飼料(以下穀物等と表記)輸出のなかで、最大の品目はとうもろこしである(第4表)。94年には4億1,280万ドルを輸出、北米向け穀物等輸出の19.7%を占めていたが、2002年以降は10億ドル前後の輸出額を記録するようになっており、2004年の輸出額は9億480万ドルと10年間で2.2倍、北米向け穀物等輸出に占める割合は22.0%に増加している。その6割から8割がメキシコ向けで、輸出額は同期間に3億4,090

第4表 米国の対北米穀物輸出

	(百万ドル)							
対北米	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
とうもろこし	412.8	1,139.5	710.0	632.6	827.1	974.6	1,007.6	904.8
小麦	94.2	326.2	214.2	194.4	267.3	351.3	396.4	462.2
小麦製品	29.8	30.1	42.9	56.2	56.3	50.5	54.4	53.8
小麦粉	13.7	25.0	14.6	12.9	11.1	12.6	19.0	20.9
グレインソルガム	390.6	300.0	349.6	435.6	504.8	436.9	312.8	360.8
米	124.7	171.3	166.9	173.6	149.7	167.5	217.6	285.4
大麦	21.3	72.7	26.7	12.5	27.2	20.7	21.3	10.3
穀物加工品	103.9	128.1	143.9	158.6	210.9	340.2	418.4	393.4
飼料・添加物等	406.5	403.6	490.9	578.1	730.7	547.1	572.0	470.5
その他	499.0	526.5	695.9	679.0	714.6	772.1	907.9	1,144.2
合計	2,096.5	3,123.0	2,855.5	2,933.5	3,499.7	3,673.5	3,927.4	4,106.3
対カナダ	(百万ドル)							
	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
とうもろこし	71.9	136.8	119.9	126.4	265.5	389.3	352.3	208.6
小麦	2.7	1.3	L	0.1	0.1	1.8	3.1	1.8
小麦製品	28.8	29.7	41.3	54.4	54.2	47.1	52.2	52.3
小麦粉	9.1	7.3	5.9	9.6	7.2	6.3	8.5	12.4
グレインソルガム	0.2	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.8	0.9
米	56.5	76.3	75.5	72.0	68.4	64.0	77.2	102.6
大麦	L	1.0	3.6	3.3	8.6	13.8	17.2	7.1
穀物加工品	44.6	69.7	69.4	78.2	79.2	93.9	79.9	79.9
飼料・添加物等	303.8	325.8	358.8	370.6	377.8	399.9	419.7	434.5
その他	376.2	382.9	479.6	536.6	568.0	601.4	716.0	817.6
合計	893.8	1,031.4	1,154.6	1,251.7	1,429.6	1,618.1	1,726.9	1,717.7
対メキシコ	(百万ドル)							
	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
とうもろこし	340.9	1,002.7	590.1	506.2	561.6	585.3	655.3	696.2
小麦	91.5	324.9	214.1	194.3	267.2	349.5	393.3	460.4
小麦製品	1.0	0.4	1.6	1.8	2.1	3.4	2.2	1.5
小麦粉	4.6	17.7	8.7	3.3	3.9	6.3	10.5	8.5
グレインソルガム	390.4	299.4	349.0	435.1	504.2	436.3	312.0	359.9
米	68.2	95.0	91.4	101.6	81.3	103.5	140.4	182.8
大麦	21.3	71.7	23.1	9.2	18.6	6.9	4.1	3.2
穀物加工品	59.3	58.4	74.5	80.4	131.7	246.3	338.5	313.5
飼料・添加物等	102.7	77.8	132.1	207.5	352.9	147.2	152.3	36.0
その他	122.8	143.6	216.3	142.4	146.6	170.7	191.9	326.6
合計	1,202.7	2,091.6	1,700.9	1,681.8	2,070.1	2,055.4	2,200.5	2,388.6

注：統計上の不突合は四捨五入処理による。Lは5万ドル未満（四捨五入時10万ドル未満）を示す。

出所：米国農務省資料（<http://www.fas.usda.gov/ustrade/>）より作成



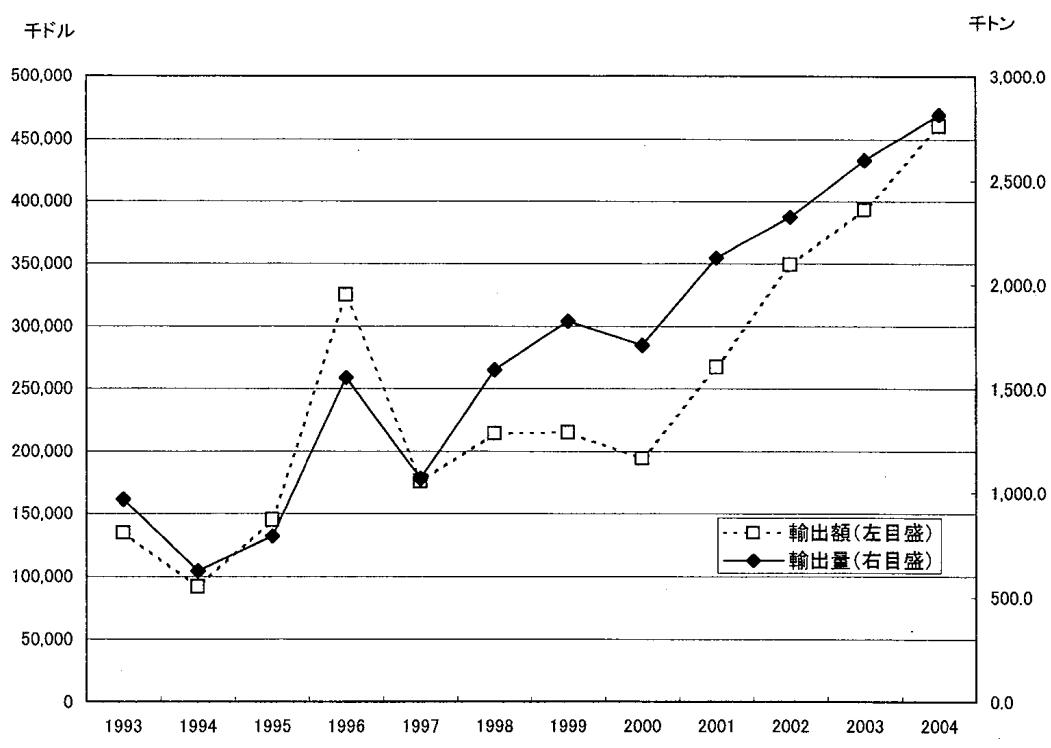
第1図 米国のメキシコへのとうもろこし輸出

億ドルから6億9,620万ドルへ倍増した。ちなみに、メキシコ向けのとうもろこし輸出を数量ベースでみると、94年の305.8万トンから大きく増えて98年以降は継続的に500万トンを突破、2004年には561.4万トンと、10年間で64.9%の増加となった（第1図）。とうもろこしはメキシコの主穀であり、NAFTA発効以降の米国からの輸入急増は、メキシコにおける農業構造の変化に甚大な影響を及ぼしていることが、随所で報告されている。<sup>2)</sup>

とうもろこしに次いで北米向け輸出額の多い品目が、ミール・ペレット等の加工品から構成される飼料・添加物等である。94年の輸出額は4億650万ドルであったが、2000年以降はほぼ5億ドルを突破する水準に達しており、2003年には5億7,200万ドル、2004年にはやや減少して4億7,050万ドルとなっている。その7割程度がカナダ向け輸出であり、金額は94年の3億380万ドルから2004年の4億3,450万ドルへ、43.0%の増加を記録している。数量ベースでみるとさらに成長が著しく、同期間に北米全域向けが72.7万トンから136.1万トンへ87.1%増、カナダ向けは39.7万トンから81.5万トンへ2倍強の

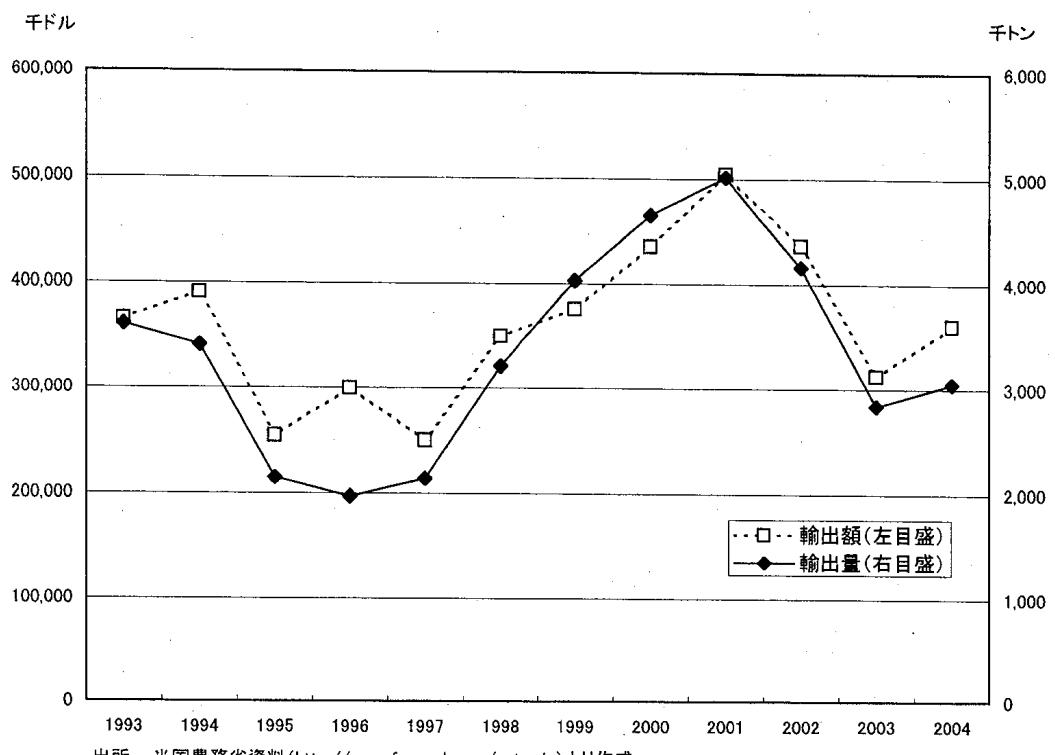
増加となっているが、当該品目分類には各種の穀物から製造された飼料等が混在していることに注意する必要がある。

その他の品目としては小麦とグレインソルガムの輸出額が比較的大きいが、いずれもメキシコ向け輸出がその大部分を占めている。小麦については、94年の北米2カ国向け輸出額が9,420万ドルであったが、2002年以降は毎年3億ドルを超える水準に届いており、2004年の輸出額はさらに増加して4億6,220万ドルに達した。第4表から明らかなどおり、そのほとんどがメキシコ向けとなっており、2004年の同国向け輸出額は4億6,040万ドルと北米向け輸出の99.6%を占める。数量ベースでの同国向け輸出量は、94年の62.5万トンから2004年の281.8万トンへ、10年間で4.5倍に増加しており、NAFTA発効後に著しい成長を遂げたことが読み取れる（第2図）。これに対して、グレインソルガムの輸出は年次変動が激しく、10年間の対北米輸出額は3億ドルから5億ドルの間を推移しているが、94年と2004年の輸出額を比較すると3億9,060万ドルと3億6,080万ドルであり、結果的に大差ない水準に落ち



出所：米国農務省資料(<http://www.fas.usda.gov/ustrade>)より作成

第2図 米国のメキシコへの小麦輸出



出所：米国農務省資料(<http://www.fas.usda.gov/ustrade>)より作成

第3図 米国のメキシコへのグレインソルガム輸出

着いた。グレインソルガムの対カナダ向け輸出は、継続的に100万ドルを下回っており、小麦と同様にメキシコ向けの輸出が大部分を占める。メキシコ向け輸出を数量ベースでみると、94年の340.4万トンから減少して96年には197.1万トンへ落ち込み、その後増加して2001年に502.1万トンでピークを記録、再度減少して2004年には304.7万トンとなっており、輸出額の変動は輸出量の増減をほぼ反映していることが知られる（第3図）。

以上のように、NAFTA域内における米国からの穀物等の輸出はメキシコ向けが金額ベースで6割程度を占め、その主軸はとうもろこし、小麦、グレインソルガムによって構成されている。このことから、食料と飼料の両面において、10年間に米国からメキシコへの輸出が成長してきたことがわかる。他方、米国からカナダ向けの輸出については、飼料・添加物等およびとうもろこしがその主軸をなしており、もっぱら飼料輸出が中心となっている。

## (2) 米国による園芸作物の輸入

米国による北米地域からの園芸作物輸入をまとめた第5表によると、「そ

の他」を除いた最大のカテゴリーは生鮮野菜で、輸入額は94年の8億8,200万ドル(32.6%)から2004年の27億6,870万ドル(33.4%)へと10年間で3.1倍に伸長しており、園芸作物輸入に占める割合は3割強の水準で安定している。そのほぼ8割がメキシコからの輸入であり、94年の生鮮野菜輸入額8億7,590万ドルは、同国からの園芸作物輸入18億8,900万ドルの46.4%に上っていた。2004年の輸入額は21億8,200万ドルと10年間で2.5倍に成長したが、そのシェアは40.2%へやや低下している。これは、メキシコから米国への園芸作物輸出の多様化を物語る現象と考えられるが、それでも生鮮野菜は金額的な流れの4割を安定的に占めていることになる。

生鮮果実は、第5表では柑橘類やぶどう・りんごなど落葉樹類等の4項目に分かれているが、これらを合計すると生鮮野菜に次いで輸入額の多いカテゴリーになる。北米地域からの輸入額は94年の3億9,970万ドル(14.8%)から2004年の10億1,030万ドル(12.2%)へ10年間で2.5倍となり、園芸作物輸入総額の1割強にあたる。その9割程度を占めるメキシコからの輸入は、同期間に3億4,460万ドルから8億9,680万ドルへ2.6倍に増加しており、同国からの園芸作物輸入に占める割合は15~20%の間を上下している。

北米地域からの冷凍野菜(いも類を除く)輸入も、10年間に大きく增加了。輸入額は94年の2億2,850万ドル(8.4%)から2004年の8億3,130万ドル(10.0%)へ3.6倍の伸びを示し、園芸作物輸入全体に占めるシェアは1割前後だが増加傾向にある。とくにカナダからの輸入が大きく伸長しており、94年の輸入額1億1,290万ドルはメキシコの1億1,560万ドルをやや下回っていたが、2004年には6億3,620万ドルへと、実に5.5倍の伸びを記録した。この金額は同年の生鮮野菜輸入をやや上回っており、同国からの園芸作物輸入全体の22.3%に上る。米国のカナダからの園芸作物輸入では生鮮・冷凍野菜が4割強を占め、その流れの中心を構成していることになる。

さらに細かい分類については、品目によって生鮮・冷蔵・冷凍の別を区分できない場合があるため、これらを合計した数値を中心に分析を進めたい。

第5表 米国の対北米園芸作物輸入

対北米 (百万ドル)

	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
生 鮮 野 菜	882.0	1,345.5	1,695.8	1,739.9	1,993.8	2,025.8	2,452.8	2,768.7
冷凍野菜	228.5	190.0	427.1	565.6	598.8	618.1	721.8	831.3
保存処理済み野菜	104.7	117.5	171.2	224.6	260.4	273.9	310.0	371.8
生鮮果実・柑橘類	34.2	38.3	42.6	59.2	66.6	72.5	93.3	136.8
生鮮果実・瓜類	66.0	112.1	144.4	127.0	137.9	91.4	91.2	131.1
生鮮果実・落葉樹類	62.0	117.9	166.8	167.2	200.6	231.0	253.2	230.4
生鮮果実・上記以外	237.5	262.1	342.8	319.8	331.6	348.2	408.1	512.0
加工済み果実	61.2	59.1	83.4	98.8	107.4	115.5	127.5	165.3
冷凍果実	36.4	47.2	59.7	77.7	76.5	89.0	126.4	132.1
果汁	65.7	88.0	112.8	88.5	75.0	92.6	86.3	109.6
いも類	64.6	89.9	96.8	7.1	67.1	103.8	89.9	74.4
その他	863.1	1,181.1	1,547.8	1,968.4	2,229.2	2,424.8	2,598.6	2,822.7
合 計	2,705.9	3,648.6	4,891.2	5,513.7	6,144.9	6,486.6	7,359.1	8,286.2

対カナダ (百万ドル)

	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
生 鮮 野 菜	6.1	107.9	223.0	333.9	386.4	411.6	518.7	586.7
冷凍野菜	112.9	165.5	295.9	412.6	437.2	454.3	547.0	636.2
保存処理済み野菜	22.5	41.3	70.6	106.6	125.9	137.9	143.9	162.5
生鮮果実・柑橘類	L	L	L	L	L	L	L	L
生鮮果実・瓜類	L	L	L	L	0.3	0.9	0.7	0.7
生鮮果実・落葉樹類	15.4	30.9	22.4	24.3	22.4	27.6	26.8	23.4
生鮮果実・上記以外	39.7	34.3	54.3	47.2	53.2	53.1	67.7	89.4
加工済み果実	22.0	12.7	19.6	26.5	34.1	37.2	44.1	58.7
冷凍果実	15.2	23.3	31.9	42.4	47.1	48.9	69.9	80.0
果汁	8.6	14.3	22.4	21.5	24.4	30.8	43.6	45.5
いも類	64.6	89.9	96.8	77.1	67.1	103.8	89.9	74.4
その他	509.9	571.2	698.5	869.3	1,016.8	1,031.7	1,080.1	1,099.9
合 計	816.9	1,091.3	1,535.4	1,961.4	2,214.9	2,337.8	2,632.4	2,857.4

対メキシコ (百万ドル)

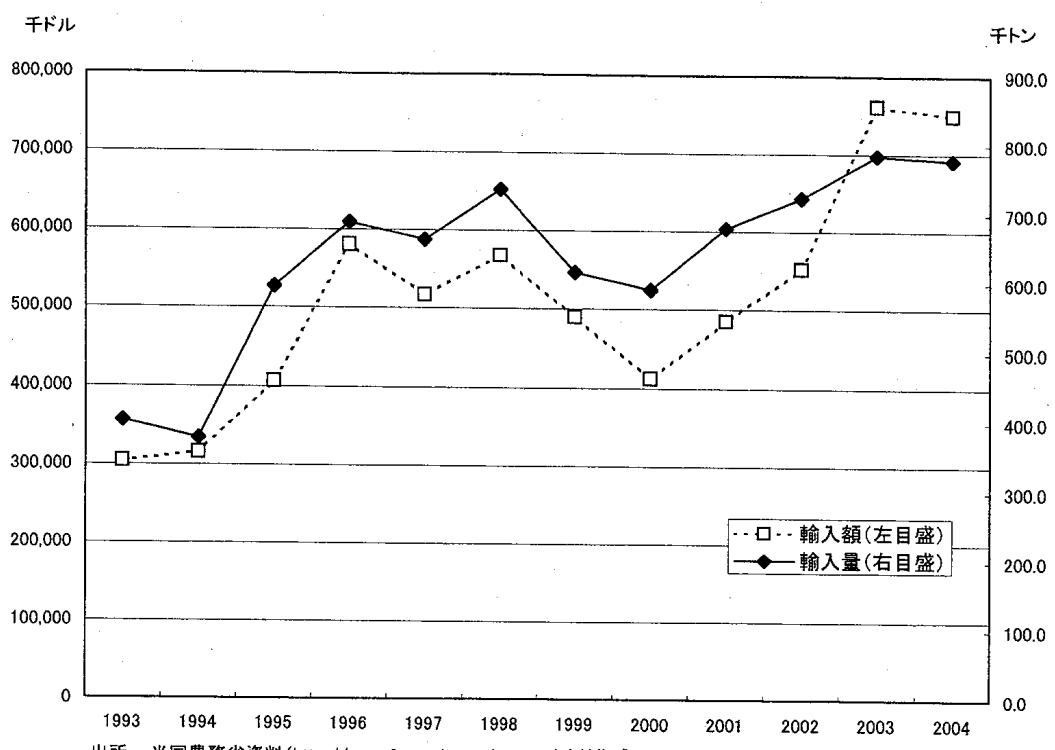
	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2004
生 鮮 野 菜	875.9	1,237.6	1,472.8	1,406.0	1,607.4	1,614.2	1,934.1	2,182.0
冷凍野菜	115.6	24.5	131.2	153.0	161.6	163.8	174.8	195.1
保存処理済み野菜	82.2	76.2	100.6	118.0	134.5	136.0	166.1	209.3
生鮮果実・柑橘類	34.2	38.3	42.6	59.2	66.6	72.5	93.3	136.8
生鮮果実・瓜類	66.0	112.0	144.4	126.9	137.6	90.5	90.5	130.4
生鮮果実・落葉樹類	46.6	87.0	144.4	142.9	178.2	203.4	226.4	207.0
生鮮果実・上記以外	197.8	227.8	288.5	272.6	278.4	295.1	340.4	422.6
加工済み果実	39.2	46.4	63.8	72.3	73.3	78.3	83.4	106.6
冷凍果実	21.2	23.9	27.8	35.3	29.4	40.1	56.5	52.1
果汁	57.1	73.7	90.4	67.0	50.6	61.8	42.7	64.1
いも類	L	L	L	L	L	L	L	L
その他	353.2	609.9	849.3	1,099.1	1,212.4	1,393.1	1,518.5	1,722.8
合 計	1,889.0	2,557.3	3,355.8	3,552.3	3,930.0	4,148.8	4,726.7	5,428.8

注：統計上の不突合は四捨五入処理による。Lは5万ドル未満（四捨五入時10万ドル未満）を示す。

出所：米国農務省資料 (<http://www.fas.usda.gov/ustrade/>) より作成

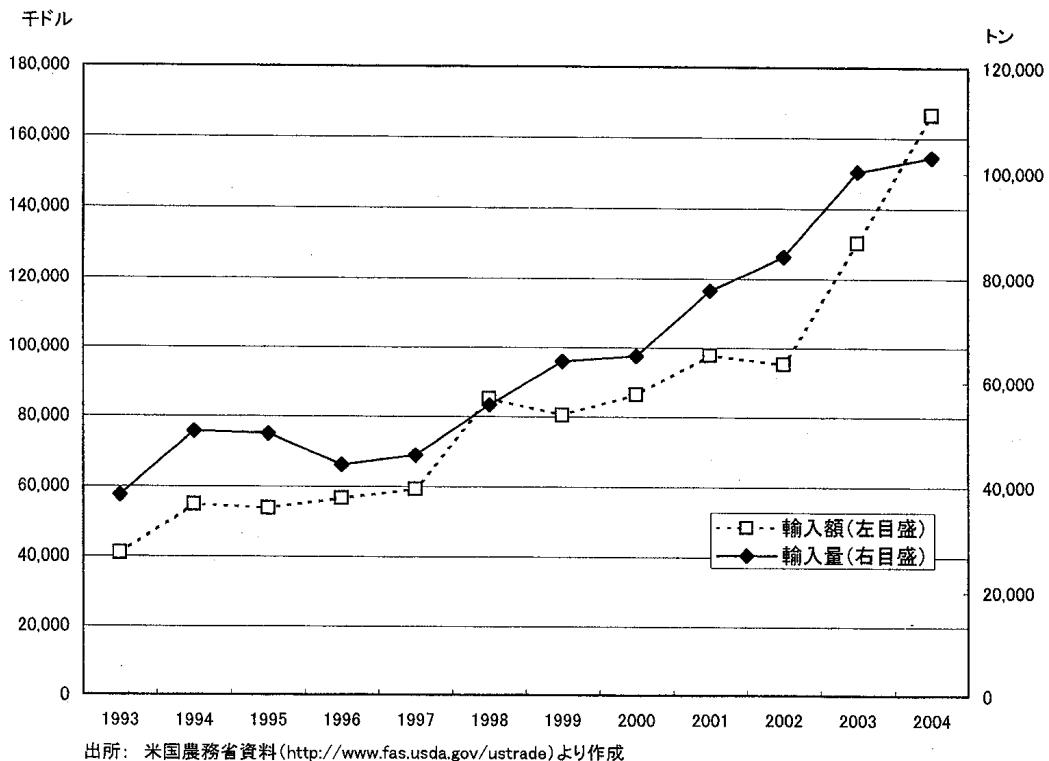
野菜のうち最大の輸入品目はトマトで、北米地域からの輸入は94年の3億2,573万ドル・43.2万トンから2004年の10億700万ドル・91.2万トンへ、10年間に金額で3.1倍、数量では2.1倍に成長した。うちメキシコからの輸入が7割以上を占め、同期間に3億1,545万ドル・37.6万トンから7億4,961万ドル・77.9万トンへ、金額で2.4倍、数量で2.1倍の増加となっている（第4図）。いも類は、単独の品目とみなすとトマトに次ぐ輸入農産物となる。同期間の北米地域からの輸入は、1億4,292万ドル・43.2万トンから6億2,076万ドル・117.6万トンへ、金額で4.3倍、数量では2.7倍の増加を遂げており、ほぼ全量がカナダからの輸入である。加工品を除く主要な輸入野菜のうち、2004年時点に北米地域からの輸入額が1億ドルを超えるその他の品目としては、パプリカ等のペッパー（5億6,530万ドル）、きゅうり（3億3,927万ドル）、カリフラワー・ブロッコリー（1億8,429万ドル）、かぼちゃ（1億8,130万ドル）、たまねぎ（1億6,848万ドル）を挙げることができる。

果実輸入に目を転じると、いちご以外のベリーの伸長が際立っている。北



出所：米国農務省資料(<http://www.fas.usda.gov/ustrade>)より作成

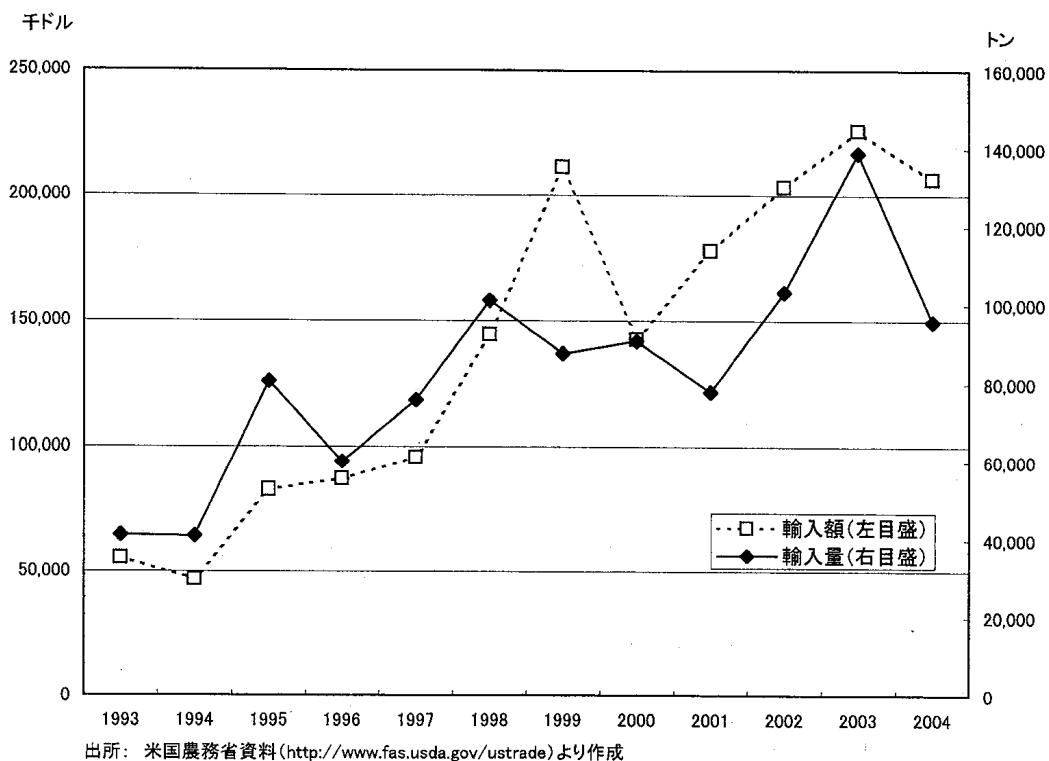
第4図 米国のメキシコからのトマト輸入



出所：米国農務省資料(<http://www.fas.usda.gov/ustrade>)より作成

第5図 米国のカナダからのいちご以外のベリー輸入

米地域からの輸入額は、94年の5,546万ドル・5.1万トンから継続的に増加して2000年には1億ドルを突破、その後も増え続けて2004年には2億2,023万ドル・11.6万トンに達し、過去10年間に金額で4.0倍、数量で2.3倍の増加を遂げた。その太宗はカナダからの輸入で、同期間に5,476万ドル・5.0万トンから1億6,658万ドル・10.3万トンへと伸長しており、北米地域からの輸入の4分の3以上を占める（第5図）。このペースには及ばないものの、いちごの輸入も増加しており、同期間に北米地域からの輸入は4,981万ドル・4.1万トンから1億912万ドル・8.0万トンへと、ほぼ倍増しているが、こちらはほぼ全量がメキシコからの輸入である。ベリー類以外の果実では、生鮮ぶどうの輸入増加が目立っており、94年の4,679万ドル・4.2万トンが2004年には2億840万ドル・10.1万トンに伸長、この間に金額で4.5倍、数量では2.4倍となった。生鮮ぶどうについても、大部分がメキシコからの輸入となっている（第6図）。加工品を除くその他のおもな輸入果実で、2004年時点に北米地域からの輸入額が1億ドルを超える品目には、生鮮柑橘類（1億3,683万ドル）



第6図 米国のメキシコからの生鮮ぶどう輸入

と各種のメロン（1億912万ドル）が該当する。これらの品目は、いずれもほとんどがメキシコから輸入されており、北米地域からの果実輸入については、その他のベリーなど一部の品目を除いて同国からの輸入が圧倒的な地位を占めていると考えることができる。

## 5. 小括

最後に、行論で明らかにされた事実を再度確認し、若干の考察を加えることによって、本稿のまとめに代えたい。

米国の農産物貿易は過去10年間に著しく拡大したが、その内訳は輸出が約3割増に対して輸入は倍増しており、当該部門での貿易黒字を大幅に減らす結果となった。地域的には、最大の顧客である東アジア地域の地位が相対的に低下し、対EUでは99年を画期に農産物貿易収支が出超から入超へと逆転した。米国にとって厳しいこうした状況の下、北米地域は農産物輸出先とし

て東アジアに比肩する大きな存在となり、同地域からの輸入も NAFTA 発効以降2.3倍に増加するなど、その重要性はますます高まっている。

品目カテゴリー別に米国の農産物貿易を検討すると、輸出額が最大の部門は穀物および飼料であるが、対北米輸出では野菜・果実等の園芸作物がこれを上回っている。その中心はカナダ向けであるが、メキシコも将来的に有望な市場であり、穀物および飼料でも両国向け輸出が急速に伸長している。他方、輸入については園芸作物がシェアを大きく伸ばし、2004年には全体の約4割を占めた。北米2カ国からの輸入もほぼ同様の傾向を示すが、その過半をメキシコが占めており、同国からの園芸作物輸入額はカナダからの2倍弱に達している。これに対して、家畜および肉類や砂糖および熱帯産品についてはカナダからの輸入がメキシコからの輸入を上回る。北米地域に対する米国の農産物貿易収支は、穀物および飼料と油糧種子および加工品との各部門で出超、園芸作物については大幅な入超（ただしカナダに対しては出超）、家畜および肉類と砂糖および熱帯産品でも入超という構造になっている。

米国から北米地域向けの穀物および飼料輸出の分析からは、うち6割程度を占めるメキシコ向けの主軸がとうもらこし、小麦、グレインソルガムによって構成され、食料と飼料の両面から輸出を伸ばしてきたこと、他方カナダに対してはもっぱら飼料輸出が中心であることが明らかとなった。北米地域からの園芸作物輸入の内訳は、生鮮野菜が約3割、生鮮果実が1割強、冷凍野菜が約1割を占めており、その他は果汁や加工品等のさまざまな品目から構成される。主要輸入品目として、野菜ではトマト、いも類、ペッパー、きゅうり等、果実ではいちご以外のベリー、ぶどう、いちご、柑橘類、各種のメロン等を挙げることができる。これらの品目のうち、いも類といちご以外のベリーについてはカナダからの輸入が卓越しているが、その他の品目についてはほとんどがメキシコからの輸入となっており、ここからも園芸作物貿易におけるメキシコの重要性が確認される。

上記の分析により、NAFTA 発効以後の米国の農産物貿易において北米地

域の重要性が増大してきたこと、当該地域においては穀物および飼料が米国の輸出部門としていっそう成長してきたこと、園芸作物部門では域内貿易の相互浸透が進展するなかで、メキシコから米国へ（メキシコに対する入超）と米国からカナダへ（カナダに対する出超）の2つの大きな流れが生じていることが確認された。これらの諸点は、北米3カ国農業におけるNAFTA発効後の変容と相互規定的関係にある現象と考えるべきであり、当該地域の農業構造を分析する際の有力な構成要素となると思われる。

なお、本稿はあくまでも米国を中心とした北米地域における農産物貿易の概観にとどまり、その分析も限られた範囲にとどまることを、最後にお断りしておきたい。第4節で焦点を当てた、穀物および飼料、ならびに園芸作物についても、さらなる詳細な品目別分析が可能であるし、家畜および肉類や砂糖の貿易の動向は、とくにカナダ農業にとって重大な意義を有するはずであるが、今回は取り組むことができなかった。また、カナダ・メキシコ間の直接的農産物貿易をも分析に包含しなければ、北米地域における農産物貿易の全体像は完成できない。これらの諸課題の解明、および北米諸国間における農産物貿易の総合的分析については、稿を改め他日を期すこととした。

（本稿は、平成16～17年度科学研究費補助金 基盤研究（B）課題番号16402048 研究代表者 磯田宏「米州のFTA下における農業生産・貿易構造の再編とアグリビジネス展開の実証研究」の成果の一部である。）

## 注

- 1 USDA “Why Agricultural Trade is Important” (<http://www.fas.usda.gov.itp/Policy/important.htm> 2003年10月15日アクセス)，拙稿「アメリカの農産物貿易戦略」村田武編『再編下の世界農業市場』筑波書房、2004年、51頁。
- 2 例えば次の文献を参照。Oxfam “Dumping Without Borders: How US agricultural policies are destroying the livelihoods of Mexican corn Farmers,” Oxfam Briefing Paper 50, August 2003.